

＜ウィング音楽テスト＞による 音楽能力・学力の分析 (その2)

Analysis of musical ability of music-students by
The Wing Musical Aptitude Test. (Part 2)

酒 井 諄
中 川 圭 子

前回、「＜ウィング音楽テスト＞の標準化とその検討」——梅本堯夫・酒井諄において、主として中学生に対するその標準化（基準の作成）ならびに、^(注)中学・高校・大学生に関する若干の分析検討を試みたが、今回は、＜ウィング音楽テスト＞によるその後のデータにもとづき、音楽を専攻する学生・生徒に関する分析を中心としてその展開を行なった。

1. 音楽専攻を旨とする児童・生徒のテストとその分析
2. 高校生（音楽科と普通科）のテスト
3. ピアノ専攻生の学校段階別比較
4. 音楽大学における音楽学専攻学生のテストとその検討

(注) 相愛女子大学 研究論集 第20巻 P.17～36, 昭和47年11月
女子短期大学

テストの実施

(注1)

期 間 1974年5月～7月

被験者 相愛学園子供の音楽教室 本科生徒（小4～中3）97人

(注2)

女子高等学校普通科2年 104人

同 校 音楽科1年 46人

2年 44人

3年 46人

(注1) 以下＜テスト＞とはすべて＜ウィング音楽テスト＞のことに限ってということとする。

(注2) 今回の報告において対象となった範囲には、以上の他に、1971年以降に取り扱った音楽大学生（女子）のデータを含んでいる。

1

音楽専攻を旨とする児童・生徒のテストとその分析

テストを行なった<相愛学園子供の音楽教室>は、概要次のような教育システムをとっている。

本教室には、音楽の専門教育を旨とする幼児、児童、生徒が在籍し、幼稚科（学令前幼児）、本科（小・中学生）、特設科（相愛中学校生徒）より編成されている。今回の被験者はその本科生徒（在籍約300人）中のA組（小4～中3）に属する97人である。京阪神地区を中心とする近畿地域在住者で、在籍小・中学校も多種多様である。過去現在を通じて、その大部分が音楽高校ないし音楽大学進学者で占められている。本科についていえば、生徒は何らかの演奏科目（現状では大多数がピアノ）を専攻して週1回のホーム・レッスンを受け、また週1回（土曜日）教室に出校して「学科」授業をうける。「学科」は和声聴音（H）、旋律聴音書取（M）、および（狭義の）ソルフェージュ——視唱（S）……中3では楽典授業を含む……の3科目より編成されている。この他、弦管打楽器専攻者はオーケストラ訓練にも参加する。演奏実技については、年間各1回の「実技試験」（自由曲）とエチュード・スケール等による「グレード試験」が課せられる。

「学科」については、H、M、Sごとに難易度を軸とするカリキュラムが生まれ、生徒は各自の能力に応じたクラス（数名ないし十数名で編成）に入って訓練をうける。各科目について6ヶ月ごとに「学科クラス分け試験」（進級試験）が行なわれ、平常の程度とかみ合わせて逐次進級してゆく。

(i) 子供の音楽教室生徒のテスト得点の一覧と学年差について

まず被験者全員の学年別・テスト別平均点を示せば次の通りである。

表1 学年別平均点

学 年	人 数 (性別 内訳)	テスト1 (満点20)	2 (30)	3 (30)	4 (14)	5 (14)	6 (14)	7 (14)	合 計 (136)
小 4	22 (男・女 1・21)	16.45	24.77	25.00	7.14	9.09	7.45	7.50	97.41
小 5	24 (2・22)	17.08	25.38	25.54	8.00	10.08	8.04	7.58	101.71
小 6	22 (1・21)	16.50	24.59	24.55	8.23	9.64	7.95	7.23	98.68
中 $\frac{1}{3}$	29 (2・27)	16.90	26.72	26.48	10.00	11.48	9.76	9.34	110.69
計	97 (5・92)	16.75	25.46	25.47	8.45	10.18	8.40	8.01	102.73

- 備考) 1. 本表では、中1～3を他学年の人数との均衡上、一括して示した。
その学年別内訳は 中1=8(女7, 男1), 中2=15(女14, 男1), 中3=6(女6)
2. 97人の専攻内訳
ピ ア ノ 専 攻 85人(小4=22, 小5=23, 小6=18, 中1=6, 中2=11,
中3=5)
ヴァイオリン専攻 12人(小5=1, 小6=4, 中1=2, 中2=4, 中3=1)
3. 音楽(実技)の学習開始年齢
小4…3.9才, 小5…4.0才, 小6…3.8才, 中1～3…4.2才

＜ウィング音楽テスト＞による音楽能力・学力の分析

今回のテスト結果では、小6グループが小5に比してやや低い得点であったが、表1にあらわれた各テストの学年差を見ると、テスト1（和音の分析）が僅少、テスト2、3でもあまり大差なく、テスト4～7において特に小学生と中学生の間に差が見うけられる。小学生全部（小4～6）と中学生（中1～3）との平均点比較表を作ると次のようになる。

表 2

学 年	人 数	テスト1	2	3	4	5	6	7	合 計
小 4 ～ 6	68	16.69	24.93	25.04	7.79	9.62	7.82	7.44	99.34
中 1 ～ 3	29	16.90	26.72	26.48	10.00	11.48	9.76	9.34	110.69
小学生と 中学生の差		0.21	1.79	1.44	2.21	1.86	1.94	1.90	11.35
上記の差の満 点に対する比		1.05%	5.97%	4.80%	15.07%	13.29%	13.86%	13.57%	8.35%

以上の小学生と中学生の格差の相異は、テスト1～3に比べて、テスト4～7の方が、2曲間のよしあしを判断する種類の問題として、学習歴ないし音楽経験の長さに関係するところが大きいことと関連があるように思われる。（各テストの内容については、本文末尾に附した＜ウィング音楽テスト＞を参照されたい。

このことは、次のテスト群別平均点の比較表にさらにはっきりとあらわれている。

表 3 テスト群別平均点

学 年	テスト 1+2 (満点50)	1+2+3 (80)	4+5+6+7 (56)
小 4 ～ 6	41.62	66.66	32.68
中 1 ～ 3	43.62	70.10	40.59
小・中の差	2.00	3.44	7.91
満点に対する比	4.00%	4.30%	14.13%

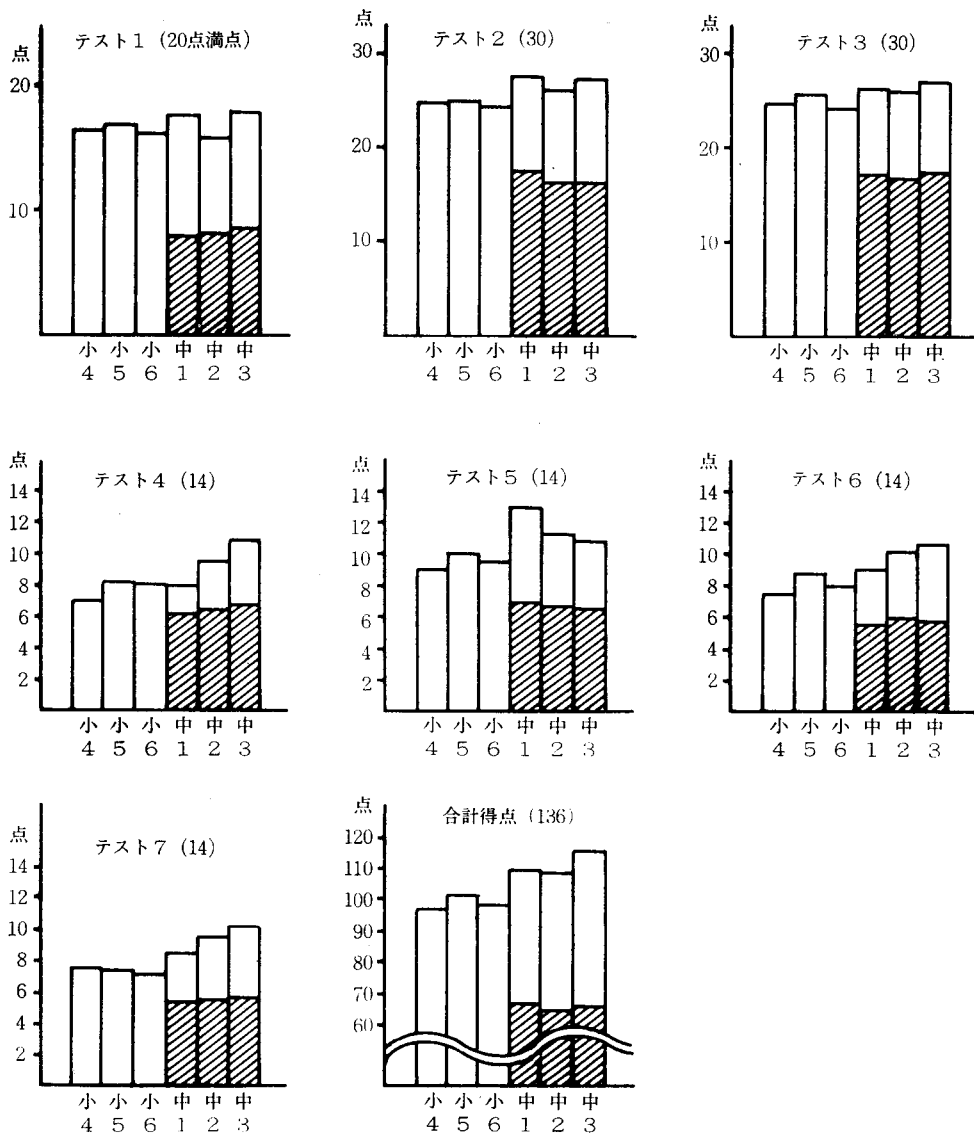
(ii) 学年別・テスト別得点の検討

以上の状況を視覚化してみたのが次の棒グラフである。ここでは、前回の報告における一般中学生の標準との比較に資するため、中学生を各学年ごとに分割し、なお男子生徒が僅少であるため、女子のみにおいて算出したものにより表示した。

グラフの斜線部分は、前回報告中（P.21）の一般中学生女子のデータによるものである。

<ウィング音楽テスト>による音楽能力・学力の分析

図1 学年別・問題別平均点グラフ(女子)



上のグラフにおいても、テスト1～3の学年差が僅少であり、4～7において小5>小6の現象と、テスト5以外では、何れも学年に応じて順次得点が増大する傾向をとっていることがよくあらわれている。

また、一般中学生と音楽専門を旨とする本教室生徒との差は、すべてのテストにわたってかなり大である。

＜ウィング音楽テスト＞による音楽能力・学力の分析

(iii) 専攻実技成績（ピアノ）とテスト得点との関係

ピアノ専攻生のうち、最近の実技試験成績で7点以下のグループ(1)と8点以上のグループ(2)に分けて比較したのが次の表である。成績は6点以上が合格点で、合格点をとるまでは、何度でも受験しなければならないことになっている。「2捨3入」方式により、7.2以下と7.8以上をサンプルとして採用した。

表 4

ピアノ実技成績	人数	テスト1	2	3	4	5	6	7	合計
(1) 7点以下	19	16.63	26.32	25.63	7.79	10.26	7.63	8.16	102.42
(2) 8点以上	13	16.92	27.15	27.15	10.31	11.77	10.15	9.00	112.46
(1)(2)のテスト得点差		0.29	0.83	1.52	2.52	1.51	2.52	0.84	10.04
満点に対する比		1.45%	2.77%	5.07%	18.00%	10.79%	18.00%	6.00%	7.38%

備考) (1) 7点以下グループの平均点は 6.89

(2) 8点以上グループの平均点は 7.98

人数の学年別内訳

7点以下…小5=10, 小6=6, 中2=2, 中3=1

8点以上…小5=1, 中1=3, 中2=6, 中3=3

なおテスト群で見ると

1 + 2 の得点差=1.12 (2.24%)

1 + 2 + 3 〃 =2.65 (3.31%)

4 + 5 + 6 + 7 〃 =7.39 (13.20%)

実技試験とテスト得点との関係においても、テスト4と6において(1)、(2)のグループの差が大きく、全般に4～7に格差が見られる。但し、今回のサンプルでは、(1)グループで小学生が大部分を占め、(2)グループで中学生が殆んどであったことから、前項（小学生と中学生の比較）のケースに類似することが予想され、この点改めてサンプルをとりなおして検討することが必要と考えられる。

(iv) 科目クラス別平均点の比較とその検討

子供の音楽教室では既述のごとく、3科目を立ててソルフェージュ訓練を行なっている。それぞれの科目ごとに、クラス段階（クラスは数字の大きいもの程高度で、各在級生徒の学年構成は一律でない）に応じてテスト得点がどのようになるかを検討するため、次の3つの表で集計を行なった。

<ウィング音楽テスト>による音楽能力・学力の分析

表 5 和声聴音 (H) 科目クラス別・テスト群別平均点

Hクラス	人数	テスト 1+2 (満点50)	3 (30)	4+5+6+7 (56)	合計 (136)	備 考
1～3	8	38.88	23.75	34.50	97.13	H1=0人 H3=6人 H2=2人 (注)
4	16	41.13	25.00	34.00	100.75	
5	22	40.45	25.18	34.64	100.27	
6	17	43.24	25.76	32.59	101.59	
7	17	43.65	25.35	33.59	102.59	
8～11	17	44.65	26.94	40.12	111.71	H8=2人 H10=7人 H9=6人 H11=2人

(注) H1, 2, 3および8, 9, 10, 11は, サンプルが僅少で他のクラスと著しく不均衡となることを考慮し, 表のごとく一括した。以下の表もこれに準じた。

和声聴音の科目では, テスト得点がHクラスの進度とともに最も平行的に増大を示すのは, テスト1+2およびテスト3である。1, 2は共に和音の聴音に関連する(むしろそのままの)問題として……1. は和音の数の分析, 2. は和音の変化の認知……当然の結果とも考えられる。これに対し, 4～7群では, クラス8～11が特に点が高いほか, クラス進度に応じた漸増傾向は見られない。

表 6 旋律聴音 (M) 科目クラス別・テスト群別平均点

Mクラス	人数	テスト 1+2	3	4+5+6+7	合計	備 考
1～3	17	41.00	25.06	34.35	100.41	M1=0人 3=15 2=2
4	15	42.33	25.20	30.67	98.20	
5	21	40.67	24.86	33.48	99.00	
6	22	42.50	25.23	35.18	102.91	
7～9	12	43.25	27.00	39.83	110.08	M7=6人 9=2 8=4
10～11	10	45.50	26.60	40.00	112.10	M10=9人 11=1

表 7 ソルフェージ (S) 科目クラス別・テスト群別平均点

Sクラス	人数	テスト 1+2	3	4+5+6+7	合計	備 考
1～2	18	40.06	24.78	33.17	98.00	S1=2人 2=16
3	26	41.35	25.04	33.19	99.58	
4	17	41.24	25.24	32.06	98.71	
5	14	43.50	25.43	35.64	104.57	
6	10	44.00	26.40	39.70	110.10	
7～11	12	45.75	27.08	41.25	114.58	S7=5人 10=1 8=2 11=1 9=3

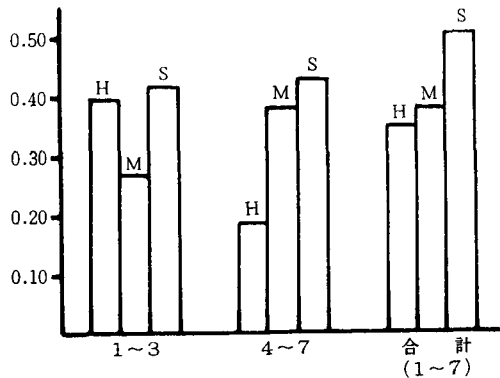
＜ウィング音楽テスト＞による音楽能力・学力の分析

旋律聴音科目では、各テスト群ともに、クラス1～5の間では得点がまちまちである（漸増関係がない）が、クラス5～11では、進度に応じて得点増が見られる。また、3科目を通じて、全体的に進度に応じた向上傾向があらわれているのは、ソルフェージュ科目であることがわかる。

以上の表のテスト群区分と少し異なるが、ウィング音楽テスト7問題は、基本音感覚的要素の強いと見なされる1～3と、楽曲のよしあしの判断力にかかわりのある4～7との2傾向に大別出来るから、この区分に従って、夫々の科目別に、クラス進度と得点との相関を出してみた。^(注)それを棒グラフに示したのが、次の表である。

(注) ウィング自身も1～3、4～7に区分して、いくつかの検討を行なっている。

図2 相関係数の問題群別・科目別グラフ



相関係数表

科目 テスト	H	M	S
1～3	.40	.27	.42
4～7	.19	.38	.43
合計 (1～7)	.35	.38	.51

この図表でも、和声聴音のクラス段階とテスト4～7との間には、5%有意水準で相関がないほかは、何れも1%有意水準で相関があり、特に、ソルフェージュ科目とクラス段階との相関が最も大であることが推察される。^(注1)

(v) テスト間の相関

次に、小4から中3までの全員97名を総合して、テスト間の相関係数を、一部抽出して算出したものを示しておく。

- (1) テスト 1 — 2 の相関係数 0.40
- (2) 1+2 — 3 〃 0.32
- (3) 3 — 4～7 〃 0.39
- (4) 1+2 — 4～7 〃 0.29

上記何れの場合も相関があるが、テスト3に対しては1+2とよりも4～7の方が、また^(注1)

＜ウィング音楽テスト＞による音楽能力・学力の分析

テストで4～7に対しては1+2とよりも3の方が相関が大であると考えられる。
(注2)

(注1) 岩原信九郎：教育と心理のための推計学，日本文化科学社，P.455＜別表XXI種々の有意水準のr＞による。つまり

n = 97の場合 5%有意水準……0.200以上
1% “ ……0.26 以上

(注2) 但し，上掲書により，有意差の検出をしたところ（P.357参照，P.434＜別表VIII tの表＞により）， $t = 0.919$ となり，1%および5%有意水準では，有意差が認められなかった。

2

高校生—音楽科と普通科—のテスト

(i) 高校生のテスト結果および音楽科生徒と普通科生徒の比較

表 8

課程区分	人数	テスト1 (満点20)	2 (30)	3 (30)	4 (14)	5 (14)	6 (14)	7 (14)	合計得点 (136)
女子高普通科2年	104	12.52	23.01	21.73	8.54	9.54	7.95	7.96	91.27
“ 音楽科1年	46	12.50	25.00	25.37	10.33	11.15	8.61	8.48	101.43
“ “ 2年	44	13.86	25.70	25.30	11.80	11.73	10.75	10.50	109.64
“ “ 3年	46	14.87	25.04	25.02	11.67	11.80	10.93	9.76	109.09
音楽科合計	136	13.74	25.24	25.23	11.26	11.56	10.09	9.57	106.68

(備考) サンプルはすべて女子高校生である。

サンプルの普通科生徒はすべて＜音楽＞選択者であるが，音楽科生徒とかなり格差の大きいことがわかる。ちなみに，それぞれ2年生について各テストごとに得点差を各満点との比で示すと，

表 9

1	2	3	4	5	6	7	合計
6.70%	8.97%	11.90%	23.29%	15.64%	20.00%	18.14%	13.51%

すべてのテストにわたって音楽科＞普通科であり，また，テスト間では，4～7が特に格差が大きく，次いでテスト3が大きく，1，2はそれ程でもないことがわかる。

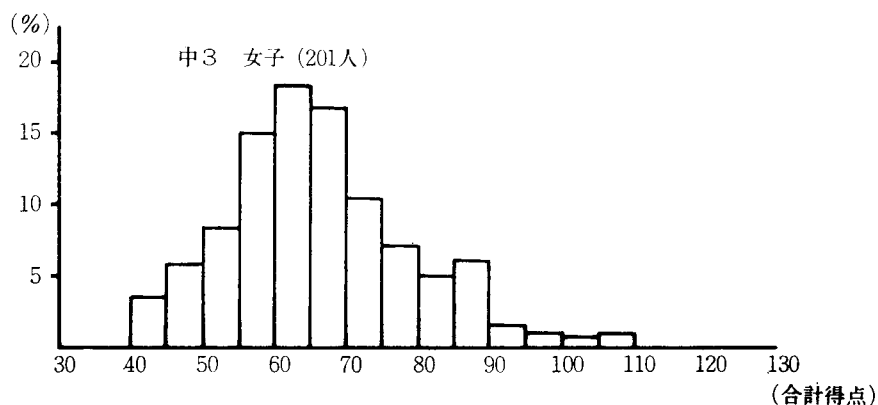
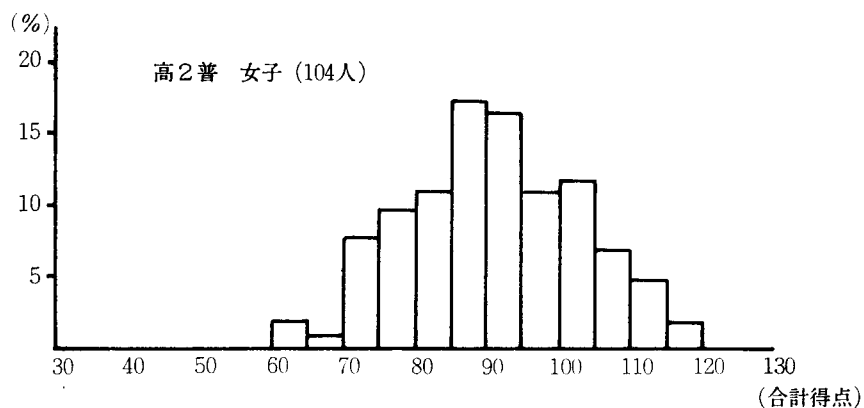
音楽科生徒については，おしなべて，2年生でほぼ頂点に達することが見うけられる。

＜ウィング音楽テスト＞による音楽能力・学力の分析

(ii) 普通科高校生のレベルについて

今回テストを行なった普通科高校生（2年 104人）を，参考までに前回のデータ中の中3女子と比較してみた。ここではかなり大きな差が見られる。

図 3 テスト1～7 合計得点のパーセンタイル分布



高校生のテストについては，まだ部分的なデータしかないので，追って巾広く実施し，標準化をすすめたいと考えている。

なお，参考までに，同年令の英国のデータとの比較表を掲げておく。

表10

段 階	A 10%	B 20%	C 40%	D 20%	E 10%
普通科高2 (16才)	109以上	99—108	85—(92)—99	75—85	74以下
英 国 16 才 (注)	90以上	80— 89	69—(73)—79	59—68	58以下

(注) H. Wing : Tests of Musical Ability and Appreciation, 2nd. ed., 1968, P.71 参照

＜ウィング音楽テスト＞による音楽能力・学力の分析

(iii) 音楽高校生と音楽大学生の比較

表 9

	人数	テスト1 (満点20)	2 (30)	3 (30)	4 (14)	5 (14)	6 (14)	7 (14)	合計得点 (136)
音楽高校生	136	13.74	25.24	25.23	11.26	11.56	10.09	9.57	106.68
音楽大学生	224	13.37	25.14	23.99	10.90	10.88	10.14	10.14	104.59

(備考) サンプルはすべて女子である。

音楽高校生 (136人) の内訳は1年生 (46人) , 2年生 (44人) , 3年生 (46人) , 作曲, 声楽, 器楽各専攻を含む。

音楽大学生 (224人) の内訳は, 3回生作曲, 声楽, 器楽各専攻を含む, (前報告—その1—P.22 表5のデータ使用)

テスト3において音楽高校生>音楽大学生, テスト5と7において音楽高校生<音楽大学生とすう差が見られるほか, 全般的に大差なく, むしろ, 総合的には音楽高校生においてピークが見られるようである。

3

ピアノ専攻生の学校段階別比較

現今専門的音楽学習者はピアノに大部分集中していると思われるが, ここでは統計上, サンプルをピアノ専攻生に限って, 小学生から大学生にわたる比較をしてみた。

表11

段 階	人数	テスト1	2	3	4	5	6	7	合 計
子供の音楽教室 生徒小4~6	60	16.52	24.78	25.00	7.78	9.55	7.93	7.57	99.12
中 1~3	21	16.67	26.62	26.95	10.38	11.67	9.90	9.38	111.57
音楽高校生高1~3	46	14.96	26.33	25.96	11.78	11.72	10.57	10.04	111.57
音楽大学生 (3回生)	84	14.24	26.33	24.61	11.45	11.76	10.55	10.39	109.58

段 階	人数	1+2	4+5+6+7
子供の音楽教室 生徒小4~6	60	41.30	32.83
中 1~3	21	43.29	41.33
音楽高校生 高1~3	46	41.29	44.11
音楽大学生 (3回生)	84	40.57	44.15

(備考) サンプルはすべて女子である。

音楽大学生のデータは, 前報告 (その1) のものを用いた。

音楽高校生46人中オルガン専攻2人を含む。

＜ウィング音楽テスト＞による音楽能力・学力の分析

テスト1では、小学生と中学生の差はわずかで、高校生以下漸減、テスト2、3とも、段階による差があまり見られないが、4～7においては、高校生まで夫々かなり増大を見せ、しかも（前項(iii)の表とともに）高校生段階ではほぼ頂点に達する状況が見られる。

4

音楽大学における音楽学専攻学生のテストとその検討

相愛女子大学音楽学部では、音楽学専攻部門に限り、過去6年来推せん入学制度を併用してきた。音楽大学のことであるから、実情として志願者、入学者は大部分専門的音楽学習経験者（主としてピアノ実技）で占められているが、制度上からは、一般の音楽大学受験者に通例課せられるような、各種目にわたるかなり高度の特殊訓練・素養を要求するものではない。その入学選考は、高等学校調査書（内申書）の評価一応募資格として一定基準以上であることが必要一と、ごく基礎的な音楽知識の試問や学習中のピアノ実技（特定の指定やグレード要求なし）演奏、簡易な歌唱を含む面接とをもって合否を決定するのである。これまでの結果では、内申書の指定基準外のものと、著しく常識を欠くと思われるもの、（一般高校生レベルで）著しく基礎的な音楽素養を欠くと制定されるものを除き、おおむね入学が認められている。

今回は、そのような推せん入学生を中心とした一連の調査結果を、ウィング音楽テストとの関連において検討してみた。

(i) 推薦入学生の平均点と標準偏差

表12

テスト	テスト1 (満点20)	2 (30)	3 (30)	4 (14)	5 (14)	6 (14)	7 (14)	合計得点 (136)
平均点(M)	12.03	23.51	22.70	9.71	9.62	9.07	8.73	95.52
標準偏差(SD)	3.16	3.42	2.87	1.96	2.30	2.18	1.75	9.04

備考) 人数は1969年～73年入学者の合計143人、テスト年次は2年次ないし3年次

(ii) 推薦入学生のテスト得点と他科目成績との相関

音楽大学生として最も基礎的な実技科目と見なされるソルフェージュおよび副科ピアノの成績とウィング音楽テストとの相関を検討してみた。

＜ウィング音楽テスト＞による音楽能力・学力の分析

表13

科目 \ テスト	1	2	3	4	5	6	7	合計点
ソルフェージュ成績	0.40	0.14	0.29	0.18	0.20	0.17	0.13	0.43
	0.36			0.26				
副科ピアノ成績	0.18	0.08	0.24	0.21	0.22	0.08	0.12	0.25
	0.17			0.26				

備考) 1. ソルフェージュ成績は、必修科目として課せられる1, 2回生の夫々の成績(聴音, 視唱等の総合点)を平均したものをを用いた。

2. 副科ピアノ成績は必修の最終年次である3回生の成績によった。

上表に見る通り, 各テストごとには, 1を除き, ソルフェージュ成績とピアノ成績との間に大差は見られないが, 合計点でかなり開きが見られる。前掲書^(注)により2科目の成績と合計得点との相関の有意差を検定した結果, $t=2.385$ となり, 2%有意水準で有意差のあることがわかる。つまり, ピアノ成績に比しソルフェージュ成績の方が, テストとの相関が大である。

(注) 岩原信九郎: 教育と心理のための推計学, P.357<二者相関の有意差>の検定例にしたがって算出, P.434<別表Ⅷ tの表>によった。

なお, 試みに, テスト得点と高等学校総合成績との関係を見るため, その「評定平均値の平均」との相関を求めてみた。参考に, それを掲載しておく。

表14 テスト得点と評定平均値の平均との相関

科目 \ テスト	1+2	3	4+5+6+7	合計点
評定平均値の平均	0.25	-0.01	0.29	0.26

備考) 「評定平均値の平均」は, 出身高等学校の調査書による。

全学年を通じての教科別評定平均値を併せ平均したもので, 総合成績の目安と見なされるものである。

(iii) 音楽学専攻推薦入学生と試験入学生の比較

表15

	人数	1	2	3	4	5	6	7	合計
推薦入学生	143	12.03	23.51	22.70	9.71	9.62	9.07	8.73	95.37
試験入学生	71	12.37	23.72	23.08	8.76	10.13	8.63	8.96	95.65

備考) 試験入学生は1966年~72年入学の各2~3回生時テストによる。

全体的に, 両者の間に殆ど差はないことが示されている。

＜ウィング音楽テスト＞による音楽能力・学力の分析

(vi) 最後に音楽学専攻学生について

ウィング音楽テストとシーショア・テストの合計点のみについて相関を出したものを示しておく。サンプルは推薦入学138人，試験入学26人合計164人である。

表16 Wing Test と Seashore Test の相関

Wing テスト

115～119									1						1		
110～114										2	3	5	3			2	
105～109										1	2	4	4	3	1		
100～104						1		3	2	4	5	7	7	3			
95～99	1					1		2	4	7	8	3	1	2	1	1	
90～94							1	3	5	6	6	2	2	2	1		
85～89								2	3	3	5	4	4	1			
80～84						1		1	3	2	1	1	1	1			
75～79								1	1					1			
70～74									1	1		2					
65～69									1								
y \ x	170 ～ 174	175 ～ 179	180 ～ 184	185 ～ 189	190 ～ 194	195 ～ 199	200 ～ 204	205 ～ 209	210 ～ 214	215 ～ 219	220 ～ 224	225 ～ 229	230 ～ 234	235 ～ 239	240 ～ 244	245 ～ 249	

Seashore テスト

n (人数) = 164

相関係数 $r = 0.27$

なお、両テストの個々の問題間相関については、追って検討してみたい。

<ウィング音楽テスト>による音楽能力・学力の分析

参 考 文 献

Herbert Wing : Tests of Musical Ability and
Appreciation, 2nd. ed. 1968, Cambridge Univ. Press

肥田野 直
瀬谷 正敏 (共著) : 心理 統計学, 培風館
大川 信明

岩原信九郎 : 教育と心理のための推計学, 日本文化科学社

後 記

前回の報告中(その1)に誤りがあったので次の通り訂正しておわびします。

相愛女子大学 研究論集 第20巻(昭和47年11月) P.22 表5 (音楽大学生(女子)
相愛女子短期大学 平均点)中, ピアノ専攻合計(84人)の合計得点平均点=108.15を, 109.58に訂正

今回の報告において, 京都大学 梅本堯夫教授(本学講師)にいろいろ御教示をいただいたことを併記して, 謝意を表する次第です。

なお, 梅本教授によれば, ウィング博士(Dr. Herbert Wing)は, 昨1973年逝去された由, 謹んで哀悼の意を表します。

(大学音楽学部 教 授)
 〃 副 手)

ウィング音楽テスト

テスト1 和音の分析

(いくつの音から成り立っているか)

練習

	A	B	C	D
1	1	1	X	1
2	X	2	2	2
3	3	X	3	3
4	4	4	4	X
5	5	5	5	5
6	6	6	6	6

音の数

相当する数の上にX印をつける

回答

1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

テスト2 高低の変化

(二度目の和音の或音が前のと比べて上ったか下ったか、同じか。)

練習

	A	B	C
上った→	U	U	X
下った→	D	X	D
同じ→	X	S	S

X印をつける

回答

U	U	U	U	U	U	U	U	U	U	U	U	U	U	U
D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S

16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

U	U	U	U	U	U	U	U	U	U	U	U	U	U	U
D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D	D
S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S

テスト3 メロディの記憶(二度目のメロディの何番目の音が変わったか)

練習 A ●●● B ●●● C ●●●●●…相当する順番の音●に|をつける

回答

3音のメロディ

1 ●●● 2 ●●● 3 ●●● 4 ●●●
1 2 3 1 2 3 1 2 8 1 2 3

4音のメロディ

5 ●●●● 6 ●●●● 7 ●●●● 8 ●●●●
1 2 3 4 1 2 3 4 1 2 3 4 1 2 3 4

5音のメロディ

9 ●●●●● 10 ●●●●● 11 ●●●●● 12 ●●●●●
1 2 3 4 5 1 2 3 4 5 1 2 3 4 5 1 2 3 4 5

6音のメロディ

13 ●●●●●● 14 ●●●●●● 15 ●●●●●● 16 ●●●●●●
1 2 3 4 5 6 1 2 3 4 5 6 1 2 3 4 5 6 1 2 3 4 5 6

7音のメロディ

17 ●●●●●●● 18 ●●●●●●● 19 ●●●●●●● 20 ●●●●●●●
1 2 3 4 5 6 7 1 2 3 4 5 6 7 1 2 3 4 5 6 7 1 2 3 4 5 6 7

＜ウィング音楽テスト＞による音楽能力・学力の分析

実施期日 _____ 年 _____ 月 _____ 日 氏名 _____ 男・女

1	2	3	4	5	6	7	計

学校名 _____ 大 学 校
 中 学 校
 学部・専攻 _____ 学部 _____ 専攻
 学年・年齢 _____ 年 ・ 満 _____ 才

8音のメロディ

21 ●●●●●●●● 22 ●●●●●●●● 23 ●●●●●●●●
 1 2 3 4 5 6 7 8 1 2 3 4 5 6 7 8 1 2 3 4 5 6 7 8

9音のメロディ

24 ●●●●●●●●● 25 ●●●●●●●●● 26 ●●●●●●●●●
 1 2 3 4 5 6 7 8 1 2 3 4 5 6 7 8 9 1 2 3 4 5 6 7 8 9

10音のメロディ

27 ●●●●●●●●●● 28 ●●●●●●●●●● 29 ●●●●●●●●●●
 1 2 3 4 5 6 7 8 9 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

30 ●●●●●●●●●●
 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

テスト4 リズム的アクセントの適否

回答 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14

始めのメロディの方がよい → A A A A A A A A A A A A A A A A
 二度目のメロディの方がよい → B B B B B B B B B B B B B B B B
 どちらも同じ → S S S S S S S S S S S S S S S S

どれかに×印をつける (以下テスト7まで同じ)

テスト5 和声の適否

回答 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14

A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S

テスト6 強弱変化の適否

回答 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14

A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S

テスト7 フレー징の適否

(区切りやレガート、スタッカート) など、ふしのまとまり方

回答 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14

A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B
S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S	S

次のアンケートにお答え下さい

3才 4才 5才 1年 2 3 4 5 6 1年 2 3 1年 2 3 1年 2 3 4

①学校の授業以外でピアノ・オルガンを習ったことがあれば、その期間→ (記入例) ←

②同じくその他の楽器(邦楽も含む)の期間と種類→ (記入例) ←

③音楽の好き嫌いについて(種類を問わず)……どれかの数字を○でかこむ
 1 くらい、2 あまり好きでない、3 すきでもきらいでもない、4 好きな方、5 大好き